

甲斐市議会総務教育常任委員会会議録

1. 開催日時 令和2年10月26日

2. 招集場所 甲斐市役所委員会室A

出席委員（7名）

委員長	内藤久歳君	副委員長	加藤敬徳君
	清水和弘君		赤澤厚君
	斉藤芳夫君		有泉庸一郎君
	小浦宗光君		

欠席委員（なし）

傍聴議員（4名）

議長	清水正二君		金丸幸司君
	五味武彦君		山本英俊君

職務のために出席した者の職氏名

議会事務局長	土屋達巳	書	記	森田公
書記	長田大地	書	記	中込美智子

内容

- 1 令和3年度当初予算への要望について
- 2 各種団体との意見交換会について
- 3 その他

開会 午後 1時30分

○書記（森田 公君） ご参集、大変お疲れさまです。

それでは、ただいまから総務教育常任委員会を開会いたします。

本日の委員会は、初めに委員長より挨拶をいただきまして、委員長の進行により進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、次第の2、委員長挨拶、内藤委員長、よろしくお願いいたします。

○委員長（内藤久歳君） 改めまして、こんにちは。

ご参集、大変ご苦労さまでございます。

いろいろアメリカのほうでは、大統領選挙も終盤に入っているということで、非常に様々な捉え方で、皆さんも状況を見守っていることと思います。一方で、今日、新内閣が発足して以来、初めての臨時国会ということで、首相の所信表明演説があるということでございます。今後のかじ取りに関して、どんな思いを伝えるのか、非常に興味があるところでございます。

また、報道等の中で、大月で不祥事が出たということで、当然当事者が悪いわけですが、また、それを監視する議会、それから当局の関係についても、我々も考えさせられる一面があるのかなというふうに思っております。そんなことを含めて、今日は非常に案件が、当局の案件がないということで、私も長い間、委員会活動しているわけですが、珍しいなというふうに思っています。

今日はそれに加えて、当局の要望事項、それから意見交換会というふうな案件がありますので、皆様方の貴重なるご意見をいただく中で、委員会を進めていきたいと思っております。皆様方のご協力をお願い申し上げまして、挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

ただいまの出席委員は7名です。定足数に達しておりますので、これより総務教育常任委員会を開会します。

本日の会議を開きます。

○委員長（内藤久歳君） 次第の3、内容に入ります。

初めに（１）令和３年度当初予算への要望についてを行います。

令和３年度当初予算への要望については、各常任委員会で協議を行い、１事業を決算審査特別委員会へ提出することとなっております。

事前に３名の委員から要望事項の提出がありましたので、内容の協議を行い、全会一致で本常任委員会からの要望事項を決めたいと思います。そのような内容でよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（内藤久歳君） それでは、そのようにいたします。

それでは、順次説明を受け、協議を行いたいと思います。

初めに、加藤委員、説明をお願いします。

加藤副委員長。

○委員（加藤敬徳君） 私のほうは、ここに書いてありますとおり、外国語教育の充実を図るため、ALTを増員するための予算を確保・拡充を願う。

これは、外国語教育に力を入れて、授業時間とかを増やしているんですけども、一方では、予算の都合でALT人材の確保・拡充はなかなか行えないということを決算委員会のほうで伺いまして、やはり生きた語学学習に、ネイティブスピーカーに接することが一番ということで、その機会を増やすためには、やはりALT人材の確保・拡充を図るために、そのための予算を拡充してほしいということで、これを提案しました。

以上です。

○委員長（内藤久歳君） ありがとうございます。

次に、赤澤委員、説明をお願いいたします。

赤澤委員。

○委員（赤澤 厚君） 私のほうからは、２款の総務費、１項の総務管理費ということで、１目の一般管理費ということで、詳細についてはお手元に、皆さん方にお配りしてありますけれども、事業内容ですけれども、一応、定員適正化計画及び職員採用計画の見直しということで、必要な人材を確保していただきたいと。

内容について言うと、読み上げさせていただきますけれども、第２次甲斐市総合計画後期基本計画がスタートし、複雑化・高度化する新たな行政需要等への対応を行うために人員の確保が必要である。また、将来的に持続可能な行政運営を図るために、働き方改革やICTの活用により、組織としての効率性・生産性の向上を図り、併せて、職員を最大限有効に活用していくためにも、職員の適正配置に取り組む必要があると思います。

また、職員が少ないと、どうしてもミス等の発生、また政策立案の遅延、能力低下等も心配され、休職する職員の発生を防ぐためにも、市職員の増員案を検討・実施してほしいと思うところです。

さらに、最近は大変災害とか多く、そういう災害に備えるという点では、昨今各地で災害が発生し、大きな被害が発生している。30年以内に起こる確率が非常に高いと言われております南海トラフ地震では、本市においても大きな被害が予想される。このような中において、市民の生命と暮らしを守り、防災・減災のまちづくり、災害時の対応と早期の復興に向けての取組を進める上においても、職員体制の確保が必要であると思われまます。

その点から、職員の増員で、災害等で市民の生命・財産を守る体制を取るには、ある程度職員の確保が必要じゃないかなと思っておるところでございます。ぜひ、よろしく検討お願いしたいと思います。

以上です。

○委員長（内藤久歳君） ありがとうございます。

次に、斉藤委員、説明をお願いいたします。

斉藤委員。

○委員（斉藤芳夫君） なかなか予算要望しても思うようにいかない、お金のかかり過ぎる要望を出してもしょうがないなと思いつながら、私は休館の日に図書館を地下からずっと見て歩いて、館長とも相談して要望書にしました。

空調設備の配管が随所で、毎年のように直しても、1個直すとあっちが駄目、こっちが駄目という状態になっているようです。それで、現状を見ても、修理した箇所は目に見えて分かっているんで、この際、そういうような箇所を一斉点検をしてもらって、全館的に修理を行うように、取りあえず修理、いきなり経費計上というわけにはいかないと思うんで、調査と設計ぐらいはすべきだなというふうに感じましたので、要望します。

あと、受付のカウンターの辺が、ちょっと建築当時から若干問題あったようですけども、大きな声で話をする場所じゃないんで、まあまあとは思っただけですけども、そうはいつでも、非常にエコーがかかったみたいにハウリングが大きいと。でかい声で話をする場所じゃないんでということもありますけれども、やるのであれば、ついでにそういうところも手を入れてもらったらどうかなという要望です。

以上です。

○委員長（内藤久歳君） ありがとうございます。

提案は以上であります。

それでは、1件ずつ協議を行います。

〔「委員長、いいですか。補足でちょっと」と呼ぶ者あり〕

○委員長（内藤久歳君） 赤澤委員、どうぞ。

○委員（赤澤 厚君） ちょっと補足させていただきます。

基本的に、近隣の市町村の職員の人口等調べてみたんですけれども、令和2年度が甲斐市が454人、同じくらいの人口規模でいいますと、アルプス市、笛吹市があるんですけれども、アルプス市が615、笛吹市が584、約200ぐらい違うことが現状でございます。

また、非常勤職、会計年度職員といいますかね、それをやりますと、アルプス市が全体の42%が非常勤職員の割合で占めている。笛吹市が職員の割合が35%、甲斐市は44%と、非常に一番高いというのが現状でございます。そんなふうも加味していただいて、やっぱり職員の体制の中で、きちっとした身分を保障する中の職員を見直ししたらどうかという、これは、あくまでも参考でちょっと調べたんで、一応報告させていただきます。

以上です。

○委員長（内藤久歳君） ありがとうございます。

それでは、加藤委員の提案について、どなたかご意見がありましたら、お願いします。
清水委員。

○委員（清水和弘君） 私は加藤委員の案に賛成です。

これからの時代に、英語力も非常に高めていかなきゃいけないという中で、やっぱり指導者が全体的に少ない、それから、指導者のレベルの問題もあるでしょうから、そういった意味で、私としては、一番、何というんでしょうかね、英語教育していく上で、リスニング等が大変必要になってくる時代の中で、やっぱりALTの増員とか、そうした資質の問題で、いい人材をぜひ登用していただくために、ここにお金をかけていただきたいと、こういうふうに思います。

以上です。

○委員長（内藤久歳君） じゃ、個々に提出者以外の方に、有泉委員、何かご意見ありますか。

○委員（有泉庸一郎君） 3つとも、それなりの要望、要件の、いろいろ説明、今いただいて、ありましたけれども、一つ、赤澤委員の要望に関しては、僕はちょっと個人的に意見が違うので、これは増員とか職員を増やすとかというんじゃないくて、その前にやらなきゃならないことが、僕、あると思うんですよ。職員の教育とか研修の機会を増やす、その予算を増やす

とかですね。今の組織自体は見直すと。

私は、あまり職員の増員というのには反対なんです。これからは、もっと少ない人間でもね……

○委員長（内藤久歳君） ちょっといいですか。今、加藤委員の提案に対して意見を求めていますから、あとはまた、個々の提案者のことについてお伺いしたい。

○委員（有泉庸一郎君） そういうことですか。

僕は加藤委員の、今年から、令和2年から新指導要領も始まったことですし、言っていることはいいと思います。ALTの増員するための予算を拡充してもらうということは、私自身は賛成です。

○委員長（内藤久歳君） 小浦委員、何かご意見ありますか。

○委員（小浦宗光君） 1番の問題だけということですね。

これは、まだまだ甲斐市でいう、掛け持ちでもってやっているような状況みたいですので、それが各校に1人とか2人とかと置けるような体制をつくってもらえれば、もっとよくなりますので、外国人講師の嘱託、ALTの増員の確保の問題は必要だと思います。

○委員長（内藤久歳君） ありがとうございます。

じゃ、あと、今、提案者に対するそれぞれの意見があると思いますので、それぞれの意見をお伺いしたいと思います。

じゃ、赤澤委員のことに関して、何かご意見あったら。

清水委員。

○委員（清水和弘君） 先ほど話ししましたけれども、私個人としては、やっぱり加藤委員のALTの予算ということなんですけれども、赤澤委員の提案に関しては、要するに、非常に大きな、一つのこれというような問題じゃなくて、全体的に捉えていかなきゃならない問題ということで、これは、今ここでこの予算を検討するというのには、ちょっと私は考えてみたいなど、こういうふうに思います。

以上です。

○委員長（内藤久歳君） ありがとうございます。

有泉委員、赤澤委員の提案に関して、先ほど言ったようなことですね。分かりました。

小浦委員、いかがですか。

○委員（小浦宗光君） この定員適正化というか、職員採用の問題は、私も甲斐市の職員の人数は少ないと思います。そしてまた、逆に言えば、臨時とか嘱託職員のパーセントが高い、

特に現場というか、保育園関係なんかは特にそういうことで、かえって正職員よりか臨時の職員のほうが多いなんていうような現場もあるみたいですけども、やはり正職員をもう少し増やす計画を考えなければいけないと思いますけれども、これは県とか国とかいろいろ、急に増やすということがなかなか難しい面もあるかもしれませんけれども、今までは欠員に応じて、採用の人数をある程度調整していたみたいですけども、もう少し、毎年バランスの取れた人数を確保していかないとならないというような状況だと思いますので、こういう計画を立てまして、もう少し積極的に、現在よりか大勢の職員を採用できるような計画を立てたらいいかなと思いますけれども、この要望に関しては私も賛成だと思います。

○委員長（内藤久歳君） あと、じゃ、最後になりますけれども、斉藤委員の提案に関するご意見等がありましたら。

清水委員、お願いできますか。

○委員（清水和弘君） 斉藤委員の意見については、これは建物の問題なんですね。長寿命化ですから、そういった建物の管理なんかも積極的におやりになっているでしょうから、そういった中で、また緊急性を伴う工事等については、別建ての予算で構築されていると思いますんで、そんな中でやっていただければいいのかなと、私はそんなふうに思います。

○委員長（内藤久歳君） ありがとうございます。

次に、有泉委員、斉藤委員の提案に対して、何かご意見ありますか。

○委員（有泉庸一郎君） 公共施設の改修みたいなことですよ。

今、全体で、公共施設に関しては今見直しているような、全体、図書館に限らず、ほかもやっているんで、その充実をしていただければということですよ。必要なことは必要だと思いますよ、これ、今からでもね。

以上です。

○委員長（内藤久歳君） よろしいですか。

じゃ、小浦委員、斉藤委員の提案で、ご意見あったらお願いします。

○委員（小浦宗光君） 私は、竜王の図書館というのは、ほとんど利用していないというか、行っていませんので、現状が分かりませんが、修理の箇所が、こうやって指摘されるようなものが出ているということは、やっぱり必要だと思いますので。

あと、今後も竜王の図書館が、こういう問題でもって、点検とか修理とか、そういうことが必要だということでしたら、またそれは検討してもらおうということでもいいと思います。また、敷島の図書館も非常に利用者が多くて、また、いろいろ設備も、何かちょっと整ってい

ないというか、そういう面もありますけれども、各図書館もそんなふうな状況だと思いますけれども、順にそういうところも力を入れて、管理をしていただきたいと思います。特に竜王ということは、よく分かりませんが、申し訳ないですけれども。

○委員長（内藤久歳君） ありがとうございます。

それぞれ3委員の提案に対する、それぞれのご意見を伺いました。ここで、皆さんの提案に対しては、それなりの趣旨といいますかね、その思いは、みんな理解をしていただいていると思われる部分で、常任委員会の意見ということになりますので、提案に対するそれぞれの委員の意見を確認をしたいと思います。よろしくをお願いします。

それじゃ、加藤副委員長から、当然自分のですよ。

じゃ、次に、斉藤委員、いかがですか。

○委員（斉藤芳夫君） 私は、何というか、時間がかかり過ぎる要望を幾らやっても効果が出ないということであれば、比較的経費のかからない、すぐできるような要望のほうが、市民に分かりやすいんじゃないかなというつもりでしましたんで、公共施設の、いわゆる総合管理計画とか、例えば長寿命化なんていう言葉も使ってはいるけれども、長寿命化計画という計画書はありませんので、現実的に、これからどういうふうにつくってくるのか分からんけれども、でき上がったら、またさらに、はるか先にならないと計画が実施に至らないというような無理な計画、あるいは無理な要望を出しても意味ないなというふうに思ったんで、手のつけやすい、図書館自体を単なる図書館と見るか、あるいは、今後どのような活用の仕方になるか分からない、特に蔵書が地下にあるということが非常に問題なんで、そういったこともひっくるめて、この際、いわゆる空調機器、設備の点検、設計というふうにはうたっているけれども、多目的にいろいろ考えて、将来を見越して、図書館には手を入れてもらいたいというのが希望ですんで、ぜひお願いしたい。

○委員長（内藤久歳君） それでは、清水委員は、先ほどの意見で、はい。

赤澤委員はいかがですか。

○委員（赤澤 厚君） 意見として、ちょっと言わせていただきたいんですけども、私の要望等については、結構前から、一般質問なんかでいろいろ出ているということも承知をしているんですけども、合併して16年たった中で、よその町村を見たときに、やっぱりある程度、人口によった適正な職員が必要じゃないかなということで、これも正直言って、かなり大きな問題ですけれども、議会として、こういうことも出していくことも必要じゃないか。必ずしも来年度じゃなくて、将来的に向かっても、こういったものを議会として、やっ

ぱり要望していくというのが必要じゃないかということで出しておきました。

ただ、基本的に、さっき加藤委員のほうから出ているとおり、私のほうからも、職員の必要な人員の確保ということであってありますので、当然、ALTの問題も当然絡むわけですが、そういったものも加味した中で、当委員会でも検討していただければありがたいなど。基本的に、職員の適正な採用をして、それなりの、加藤委員のは英語なんですけれども、そういったものをきちっとした中で、適正な人員の確保ということが基本的になっておりますので、その辺の皆さんの意向に沿っていきたいなど、私のこれ、あくまで意見として述べさせていただきます。

以上です。よろしく申し上げます。

○委員長（内藤久歳君） 有泉委員は。

○委員（有泉庸一郎君） この中から選ぶという、そうことですね。そういうことであれば、加藤委員のALTの増員の確保の拡充をお願いしたいと思います。

○委員長（内藤久歳君） 分かりました。

貴重なご意見をありがとうございました。

ここで、それぞれの意見と、それから、3人の委員の提案に対するそれぞれの意見を聞く中で、それぞれの思いを伝えていただいたと思います。そういう中で、今伺ったところ、加藤委員の提案に対するALTの予算確保というようなご意見が多かったようでございます。

ここで、加藤委員の予算要望に対する内容について、ここでお諮りをしたいと思いますけれども、本委員会からの要望については、加藤委員の提案の内容で提出してよろしいかどうか決めたいと思います。その方向でよろしいですか。ご意見ありますか。

〔発言する者あり〕

○委員（齊藤芳夫君） 要望は要望で必要なことなんで、私もすべきとは思いますが、出す以上は、やはり実現性を高めてもらうための努力を、やっぱり議員が、あるいは議会全体として、やっぱり相当プレッシャーくれないと、簡単に、はいよといかないと思うんで、そのところはみんなで、どういうふうに言えば、相手が、相手というか、当局が納得してくれるかどうか、その辺はいろいろあるとは思いますが、簡単に流されないように、みんなで努力したいなというふうには思います。

○委員長（内藤久歳君） ありがとうございました。

一応、加藤委員の提案に対する賛成者の意見が多かったようですので、これに決定をしたいと思います。よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（内藤久歳君） ありがとうございます。

じゃ、そのような方向で今後、当局に対しては要望をしておきたいと思います。

〔「一ついいですか」と呼ぶ者あり〕

○委員長（内藤久歳君） はい、どうぞ。

有泉委員。

○委員（有泉庸一郎君） 委員長と副委員長含めて、要望事項の文面として、もうちょっと必要性があるようなものをつくっていただきたいと。

○委員（斉藤芳夫君） はい、了解しました。貴重なご意見ありがとうございます。

〔「一ついいですか」と呼ぶ者あり〕

○委員長（内藤久歳君） はい、斉藤委員、どうぞ。

○委員（斉藤芳夫君） 概算どのぐらいの、必要人数と概算の金額ぐらいは、やはり当局とも、要望出す以上は協議をして、このぐらいの数字なんだから何とかしろというようなことも試算する必要があるかなというふうに私は思います。

○委員長（内藤久歳君） はい、分かりました。また、その点については、今後、先ほど意見がありましたように、これは、要は、提出者は1人であっても、この常任委員会で提出するものですから、今後この案件に関しては、この委員会が全ての責任を負うと同時に、この提案に対して、具現化して前へ進めるような形で持っていくのがこの委員会の責任ですから、そういうのも含めて今後、今斉藤委員が言われましたご意見も含めて、やはり委員会として取り組んでいくという形で進めていきたいと思いますので、委員各位のご協力をお願いしたいというふうに思います。

それでは、決算特別委員会へ提出する文面は、提案者の加藤委員と正副委員長で検討していきたいと思いますので、ご一任を願います。それでよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（内藤久歳君） それでは、そのようにさせていただきます。

以上で、令和3年度当初予算への要望についてを終了します。

続いて、次第（2）の各種団体との意見交換会についてを行います。

事前にご検討をお願いしてありますので、意見交換の相手方、テーマについて、どなたかご意見等がございますか。

斉藤委員。

○委員（齊藤芳夫君） コロナ禍で、教育の方針がいろいろ変化があったと。つけては、やはり1人1台パソコンというふうに決まった以上、今後の学校の教育方針というものは、基本的に変わっていくんじゃないかというふうに感じます。

さて、じゃ、それを具体的にどういうふうな話し合いをするという相手になってくると、これ校長会なのか、それとも社会教育のほうなのか、何か学校運営協議会なのか。ここら辺を、どういう団体を選んで協議すべきかなということが、ちょっと私、よく分からないんで、校長会とやっても、今まで何度かやっているけれども、あまり進歩的な話がなかったんで、そういうことをちょっと感じています。

できれば、これから国がこういうふうに変わるというような指針がはっきり出てくれば、その対応で、どういう人とこういう意見交換したらいいかも、みんなで考えてみたらどうかなど。現在ある団体だけに、こだわることはないんじゃないかなという気がします。

○委員長（内藤久歳君） ほかにご意見ございますか。

赤澤委員。

○委員（赤澤 厚君） 私も今現状を見ると、教育問題、一番関心を持っているということで、やっぱりそういった学校関係と話し合いを持つというのは、いいんじゃないかなと思います。

ただ、さっき齊藤委員が言ったとおり、校長会の中でも、小・中のかかなり温度差があるという中で、小・中両方呼ぶのはなかなか難しいんじゃないかと。小学校は小学校、中学校は中学校にこだわってやったほうが、もっと実のある、具体的な話ができるのかなと思っています。その辺を考えたときに、現状の学校の対応とか、今後の方針とか、そんなふうなことも、やっぱり我々も、生に現場のほうから聞くことが必要じゃないかなと思っていますので、できればその辺を絞った中で、やっぱりこの委員会には、意見交換会として、したらどうかと思います。これは意見です。

○委員長（内藤久歳君） ほかにございますか。

小浦委員。

○委員（小浦宗光君） やはり今回の場合は、コロナの問題がありまして、そしてまた、それに関連して、1人1台パソコンということもあったし、また、学校も休暇がたくさんありまして、学習が遅れているとか、学校のいろいろな授業も、修学旅行とか運動会とか、いろいろな行事もできなかったような状況ですので、やはり今回は、小・中学校、学校長とのこういう交換会を開いたら一番いいかなと思うんですけども、私の意見は。

○委員長（内藤久歳君） ありがとうございます。

ほかにございますか。

じゃ、全員から意見を聞きましたので、それぞれ意見があったらお願いしたいと思います。

じゃ、加藤副委員長から。

○委員（加藤敬徳君） じゃ、私も、当初は災害、防災関係はどうかなと思ったんですけども、今、教育関係のお話を伺いまして、確かに今年は例年とちょっと違いまして、いろんな状況ありますので、そういった現場の声とか、そういったところからの要望なんかも吸い上げられればいいかなと思ひまして、やっぱりそういう関係、ちょっとどこの団体がいいのかというのは、私もちょっと分からないんですけども、そういう関係のところからお話伺ったほうがいいかなと思ひます。

以上です。

○委員長（内藤久歳君） ありがとうございます。

清水委員、いかがでしょうか。

○委員（清水和弘君） 私は個人的には、文化財に関するものについて、ちょっと皆さんにお話を聞いてみたいなんて思ったもんですから、たまたま山県神社にあった民俗資料館等も廃止になって、実際今、甲斐市における文化財、そういった遺跡の関係とか、そういったものがほとんど分散をしていると。それから、今、社会的にいろいろ、ユネスコの問題であるとか、熊野古道だとか、いわゆる甲斐市の、そういった古いよき時代の歴史、子供たちが一斉にどこかへ行って物を見る、物理的に物を見るというような機会がなかなかないもんですから、そういう意味で私は、文化財をどういった形で、今後甲斐市の中では取り扱って、どのような形を示していくのかということをちょっと聞いてみたいと思うもんですから、そういったあれがあれば、私はそこに、ちょっと個人的には重きを置きたいと思ひています。

○委員長（内藤久歳君） ありがとうございます。

有泉委員、いかがですか。

○委員（有泉庸一郎君） 先ほどから皆さん、教育関係の団体というのを話しになっていきます。過去の意見交換会のやつを見ると、一番最初の21年度に教育委員会とやっていますよね。個々の話というのもあれなんですけれども、甲斐市の教育委員会としての、どういう現状と、どういう方針でやっていくのかということも、やっぱり話し合ったほうがいいような気がしますんで、私個人の意見としては、教育委員会の委員との意見交換ができればと思ひます。

○委員長（内藤久歳君） ありがとうございます。

それぞれ意見をありがとうございました。方向性としては、学校教育に関することということの中で、今、学校現場か、あるいは教育委員という2つの組織といいますかね、そういうことが出ました。それについて、どちらかに絞りたいと思います。

その点については、どんな方向で。

赤澤委員。

○委員（赤澤 厚君） 私は、基本的に有泉委員の言うこと、分からんわけじゃないですけども、教育委員となると、教育長が基本的にいろんな面でするので、一般質問なり何か、いろんな形で聞くことができるということになると、やっぱり学校の校長会とか、そういうなかなか聞く機会がないんで、こういう機会なんで、できればそういう人たちが語る会をしたほうがいいのかと思います。

○委員長（内藤久歳君） ありがとうございました。

今の赤澤委員の中で、現場サイドの状況をトップと意見交換をするというのが望ましいかなというようなご意見もあります。

ほかに。

具体的に、今2つの案が出ました。教育委員、それから学校長会というふうな形の中でございますが、その2つに関して、皆様のご意見を伺いたいと思います。いかがですか。

加藤副委員長。

〔発言する者あり〕

○委員長（内藤久歳君） いや、だから、そちらのほうが多かったから、そちらに絞り込んで進めなきゃ……

○委員（斉藤芳夫君） 今、教育委員会委員という、これは4人しかいないわけですよ。生の声をどこまで、どうなのかなという感じは、4人だから大勢よりはいいかもしれないなという感じの反面、どうかなということ。

ただ、校長会は、小・中学校校長会は二度も三度もやっているけれども、テーマを絞れば、いい案が出てくるのか、あるいは、いい方向に向くような意見の交換ができるのかという、そここのところ辺がちょっと、何度かやっている割にはどうかなという感じと、あと、ここに新しく小・中学校評議委員というの、これ2年6月からとなっているの、これは空欄になっているけれども、人がいないということ。

〔発言する者あり〕

○委員（斉藤芳夫君） 2年6月というと、もう過ぎていて、認定というかな、数何人とか、

男性が何人、女性が何人とかと決まったんじゃないのかなと思って、今ちょっと調べ切れなくて、ちょっと今見ているけれども……

○委員長（内藤久歳君） 暫時休憩します。

休憩 午後 2時09分

再開 午後 2時15分

○委員長（内藤久歳君） 会議を再開します。

先ほどの小・中学校評議員の総数です。各学校6人ということのようでございまして、16校ですから96人ということで、男女比率は分からないという状況でございます。

じゃ、そういうことを含めて、再度、今、意見交換する団体ということで、様々な意見が出ましたけれども、いずれどこかに絞り込むということで、今、何人かからのご意見が出ました。そのことに関して、意見集約をしていきたいと思っておりますので、具体的に今、何件か出ていますけれども、ここでいきたいというふうなご意見があったら、お願いしたいというふうに思います。

有泉委員、どうぞ。

○委員（有泉庸一郎君） 評議員は96人ね。現場の声を聞くというのが目的であれば、評議員の中から何名か選んでいただいとかが、それで、学校からの先生方も選んでもらって、合同みたいなものをつくってもらって、議会でこういう意見交換会をやるんだからということをお願ひできないかね、そういうこと。

○委員長（内藤久歳君） 森田係長。

○書記（森田 公君） すみません、今、有泉委員から提案があったんですけども、さすがにこのコロナ禍で、大量の人数を呼ぶということもちょっとできませんので、16校会でも多いかなというぐらいな感じです。

先ほどから出ている中で、例えば小・中学校の校長先生にしても、それぞれ代表で来ていただいて、半分ぐらいで意見交換をすとかというような感じで今年は考えていますので、できるだけ少人数で、効率のいいような内容でやっていただければなというふうな形で、ほかの委員会もそういうような形で、団体の人数をかなり縮小する中で、今回は意見交換会を開催したいと考えておりますので、その辺は検討していただいて、人数のほうを決めたりし

ていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

○委員長（内藤久歳君） ありがとうございます。

今、事務局のほうから、現状を鑑みる中での運営というふうなことになるかと思います。そんなことも含めて、ご意見をお願いしたいと思います。

有泉委員。

○委員（有泉庸一郎君） だから、そういうことであれば、そういう趣旨はみんな、今いろいろ意見があって、現場からの声を聞きたいという話でしょう。であれば、それはそちらに人数とかお任せするから、そういうものの学校関係の人を選んでいただければ、それで規模もそれしかないでしょう。そういうふうにしていただければと僕は思いますけれどもね。

○委員長（内藤久歳君） 今、有泉委員のほうから、そういうことも含めて、一任という形になるかと思いますけれども、今出たご意見を参考にしながら、その意見に沿った内容で計画するというふうなご意見が出ていますけれども、いかがでしょうか。

赤澤委員。

○委員（赤澤 厚君） 私は校長会でいいんじゃないかと思います。なぜかといえば、評議員というのは、あくまでも学校の校長が委嘱するという組織なんで、校長が何かあったときに、その人たちにお伺い立てて、その組織である程度、内容を決めるという組織だと思うんですよね。これだって、別に校長会があれば、その辺の問題はある程度クリアできるんじゃないかなと思うんですね。

だから、その辺に関してやっぱり校長会、そういった今事務局が言ったとおり、多いんなら、ある程度中で、校長会に任せた中で、代表というかね、何人、半分かどうするのかね、その辺はお任せしますけれども、そういった形の中でやってもらえばいいなと思います。

○委員長（内藤久歳君） ありがとうございます。

斉藤委員。

○委員（斉藤芳夫君） 私も、もう六、七年やっていないんで、校長みんな替わっていますから、校長会でいいなとは思いますが、ただ、全学校来られないというところ辺が、何かうまくやる方法ないもんかね。例えば会議室を違うところでやるとか、対策でできないかなというふうに思うんですけども、どうでしょう。

○委員長（内藤久歳君） 小浦委員。

○委員（小浦宗光君） 人数の問題はともかくとしまして、やはり学校の実情を一番よく知っているのは、先ほど話が出ている評議員さんとか、教育委員さんとか、社会教育委員とか、

そういう人ではなくて、現場のやっぱり校長先生が一番よく知っていると思いますので、校長会とか教頭会があると思いますけれども、そういう人たちを対象に、特に今年の場合は、コロナの問題とか、その後の問題とか、取り組む問題がたくさんあって、また、予算的にも必要な問題もたくさんあると思いますけれども、そういう話を聞いてやるということで、またこっちも聞きたいことがありますので、やはり今年に限っては、小・中学校の校長先生に来てもらって話をするということがいいんじゃないかと思います。

ただ、人数的には、例えば旧敷島地区とか双葉地区とか竜王地区、そのこの学校の中から、人数を絞って来てもらえばいいかもしれないし、いろいろな方法でもって皆さん検討していただいて、16校が多過ぎるとしたら半分ぐらいにするとか、そんなふうなことでもってお願いをしたいと思います。

以上です。

○委員長（内藤久歳君） ありがとうございます。

森田係長。

○書記（森田 公君） ご意見ありがとうございます。

取りあえず、16校全部を呼ぶということで、教育委員会のほうとちょっと協議をしてみます。今の体制が逆になりますので、そちらの委員会の皆様の座っていらっしゃるほうに校長先生方が座るという形であれば、16人座れないこともないと思いますので、真ん中を1つつ空けたとしても、それぞれ四四、十六で、ちょうど4列あれば全員入れますので、できるだけ教育委員会のほうと話をして、全16校、もしこのまま決まるようであれば、そういう形で話を進めていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○委員長（内藤久歳君） ありがとうございます。

今、事務局のほうから、そういう3密対策も含めて、一応校長会ということで、16校出席すれば16名になるわけで、そんな提案がございまして、今、委員各位のご意見の中でも、現場の意見を聞くということに関しては、校長が一番責任も持っているし、一番よく分かっているというふうな背景がありますので、今回については、校長会との意見交換会をやるというふうなことでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（内藤久歳君） じゃ、そんなことで進めさせていただきますので、よろしく願いします。

なお、日程については、先生方と調整がありますので、事務局にご一任お願いしたいと思

います。

また、参加メンバーについては、団体の代表と協議を行い、決定させていただきますけれども、よろしく願いいたします。よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（内藤久歳君） それでは、そのようにいたします。

以上で、各種団体との意見交換会についてを終わります。

続いて、次第4のその他に入ります。

委員より常任委員会関係で、その他について何かありましたら、お願いをいたします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（内藤久歳君） ないようですので、事務局、何かありますか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○委員長（内藤久歳君） ないようですので、以上をもちまして、本日の日程は全て終了いたしました。

これをもちまして総務教育常任委員会を閉会します。

ご苦労さまでした。

閉会 午後 2時24分